

赤十字のシンボルツリー「いとすぎ」

赤十字発祥のきっかけとなった戦地、北イタリアのソルフェリーノの丘はいとすぎの群生地です。天高く真っすぐに育つイトスギは赤十字・青少年赤十字（JRC）のシンボルです。

アンリー・デュナンによる赤十字思想の提唱から数えて100年、1959年（昭和34年）に赤十字百周年を記念して、ソルフェリーノの丘で採取したいとすぎの種子がイタリア赤十字社から日本赤十字社に贈られ全国に配られました。



山口県青少年赤十字賛助奉仕団では、いとすぎの育成を通じて子どもたちに赤十字の心を育くんでもらおうと、JRC加盟校へ苗木を贈呈する活動に取り組んでいます。

県内のイトスギから種の採取が難しかったため、中・四国ブロック内の愛媛県から種を分けてもらい、育成しています。



山口県では1963年（昭和38年）に山口県立農業高等学校で種をまき、約50cmになった苗木を、当時のJRC加盟校49校（小学校23、中学校8、高等学校18）に配付されました。

環境によっては生着させることが難しく、現在県内に残っているのは、山口県立下関南高等学校と山口県立柳井高等学校の2本のみです。



また、山口県日赤紺綬有功会も、創立50周年記念事業としてこの活動を支援し、50本の苗木をこれからJRC加盟校に配付していきます。

育てた苗木を子どもたちに届け、赤十字の心も繋いでいきます。